



TITLE:

三樹会病院における臨床統計 最近
5年間の外来新患統計 (1989-1993年
度)

AUTHOR(S):

丹田, 均; 加藤, 修爾; 大西, 茂樹; 中嶋, 久雄; 氏家, 徹;
安藤, 俊夫

CITATION:

丹田, 均 ...[et al]. 三樹会病院における臨床統計 最近5年間の外来新患統計 (1989-1993年度). 泌尿器科紀要 1995, 41(4): 313-322

ISSUE DATE:

1995-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115477>

RIGHT:

三樹会病院における臨床統計 最近5年間の外来新患統計 (1989~1993年度)

医療法人(社団)三樹会病院

丹田 均*, 加藤 修爾, 大西 茂樹
中嶋 久雄, 氏家 徹, 安藤 俊夫**

CLINICAL STATISTICS AT THE UROLOGICAL CLINIC OF SANJUKAI HOSPITAL —STATISTICS ON NEW OUTPATIENTS DURING THE LAST FIVE YEARS—

Hitoshi Tanda, Shuji Kato, Shigeki Ohnishi,
Hisao Nakajima, Toru Ujiie and Toshio Ando
From the Urological Clinic of Sanjukai Hospital

We report the clinical statistics of new outpatients for five years since 1989 at our hospital. The average total number of new outpatients in a year was 8309.8 (8122~8691) and new outpatients tended to show little change. The male to female ratio was 1.57:1, and 24.3% of the outpatients were referred to us by others sources.

The representative operations on outpatients were circumcision, vasectomy, resection of condyloma and resection of caruncle.

A statistical study was made on new outpatients according to the international classification of disease. There were 140.6 (1.97%) malignant urogenital tumors per year. Sexually transmitted diseases showed a tendency to increase for the last five years.

In males the major disease was upper urinary tract stone (21~24%), prostatitis (21~24%) and benign prostatic hypertrophy (17~20%) and in females they were cystitis (58~61%), upper urinary tract stone (15~17%) and pyelonephritis (3~4%).

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

(Acta Urol. Jpn. 41: 313-322, 1995)

Key words: Clinical statistics, Outpatient clinic

緒 言

1989年より1993年の5カ年間の医療法人(社団)三樹会病院(札幌市, 日本泌尿器科学会専門教育施設認定, ESWL 施設認定)の外来新来患者(以下新患と略す)の臨床統計を行ったので報告する。

対 象 と 方 法

1989年1月1日より, 1993年12月末日までの5カ年間に当院に受診した新患を対象とした。

そして1カ年毎に統計を行った。

疾病分類は, 従来の報告¹⁻⁹⁾のごとく WHO に定められた国際疾病分類の第9回修正分類表を採用した。

結 果 と 考 察

1. 外来新患数

1989年より1993年の5カ年間41,549名, 年平均8,309名であった。男性年平均5,074名, 女性3,235名であって, 男女比は1.57:1であった。他医より紹介を受けた患者はこの5年間で10,097名, 年平均2,019名24.3%であった(Table 1)。

2. 外来新患の年齢別, 性別受診数

新患の年齢別受診数に関しては, 20~30歳代と50~

* 現: 札幌医科大学非常勤講師

** 現: 三樹会新札幌クリニック院長

Table 1. 外来新患数

	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	合 計 (年平均)
男 性	5,342 (61.5%)	5,071 (61.2%)	4,933 (60.7%)	5,024 (61.1%)	5,002 (60.8%)	25,372 (5,074.4) (61.06%)
女 性	3,349 (38.5%)	3,212 (38.8%)	3,189 (39.3%)	3,203 (38.9%)	3,224 (39.2%)	16,177 (3,235.4) (38.94%)
合 計	8,691(100.0%)	8,283(100.0%)	8,122(100.0%)	8,227(100.0%)	8,226(100.0%)	41,549 (8,309.8) (100.0%)
(紹介患者数)	2,148 (24.7%)	1,865 (22.5%)	1,741 (21.4%)	1,878 (22.8%)	2,465 (30.0%)	10,097 (2,019.4) (24.30%)

Table 2. 外来新患の内訳

	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	合 計 (年平均)
確 診	7,707 (88.7%)	7,269 (87.7%)	7,201 (88.7%)	7,338 (89.2%)	7,017 (85.3%)	36,532 (7,306.4) (87.9%)
未 診	464 (5.3%)	631 (7.6%)	514 (6.3%)	620 (7.5%)	931 (11.3%)	3,160 (632.0) (7.6%)
正 常	447 (5.2%)	290 (3.5%)	319 (3.9%)	208 (2.5%)	229 (2.8%)	1,493 (298.6) (3.6%)
他 科	73 (0.8%)	93 (1.2%)	88 (1.1%)	61 (0.8%)	49 (0.6%)	364 (72.8) (0.9%)
合 計	8,691(100.0%)	8,283(100.0%)	8,122(100.0%)	8,227(100.0%)	8,226(100.0%)	41,549 (8,309.8) (100.0%)

Table 3. 主なる外来手術数

	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年
環状切開 (背面切開)	50	40(1)	43	36	40
精 管 結 紮	36	21	26	11	2
コンジローマ切除	16	15	14	16	7
カルンケル切除	3	23	18	17	14
精 巢 生 検		10	5	6	5

Table 4. I 感染症および寄生虫症

	(例 数)					計 (年平均例数)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
016 泌尿生殖系の結核						
016.0 腎	8	10	5	6	3	32 (6.4)
(経 過)	(9)	(5)	(5)	(8)	(9)	(36) (7.2)
096 梅毒	4	4	4	7	5	24 (4.8)
(経 過)	(5)					
098 淋 菌 感 染	95	110	104	77	50	436 (87.2)
098.0 急性, 下部泌尿生殖器 クラミジア混合	7	49	39	22	11	128 (25.6)
099 その他の性病						
099.4 その他の非淋菌性尿道炎						
(076) ヘルペス	24	54	23	19	20	140 (28.0)
(078) クラミジア	53	98	34	46	73	304 (60.8)
(112) カンジタ症	3	4	2	1	1	11 (2.2)
(132.2) 毛じらみ症	4	13	5	4	4	30 (6.0)
616.1 外 陰 部 炎	3	2	14	12	19	50 (10.0)
外 陰 部 湿 疹	56	68	47	50	48	269 (53.8)
トリコモナス	1		1		1	3 (0.6)
〈性病の検査→URO OK〉		(17)	(14)	(52)	(32)	(115) (23.0)

Table 5. II 新生物 (悪性)

		(例 数)					計 (年平均例数)	
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年		
185	前立腺癌 (経過せる) (再発)	21 (1)	34 (0)	43 (4) (1)	49 (3)	63 (5)	210 (13)	(42.0) (2.6)
186	精巣腫瘍 (経過せる)	5	6	7 (1)	8 (7)	6 (7)	32 (15)	(6.4) (3.0)
187	陰茎 その他の男性生殖器							
188	膀胱腫瘍 (経過せる) (再発)	67 (13) (7)	47 (12) (2)	34 (10) (7)	54 (15) (8)	45 (39) (5)	247 (89) (29)	(49.4) (17.8) (5.8)
	膀胱後部腫瘍			1	1	1	(3)	(0.6)
189.0	腎癌 (経過せる)	10 (1)	23 (3)	15 (9)	22 (10)	25 (16)	95 (39)	(19.0) (7.8)
189.1	腎盂・尿管腫瘍	9	9	8	6	3	35	(7.0)
189.2	(経過せる)	(4)	(1)	(2)		(1)	(10)	(2.0)
194.0	副腎腫瘍	2	1		3	2	8	(1.6)
158.0	後腹膜腔腫瘍		1		1	1	3	(0.6)
188.4	膀胱後部腫瘍		1				1	(0.2)
182	子宮癌 (尿路侵襲)	1	3	1		3	8	(1.6)
154.0	胃腸系癌の尿路侵襲 悪性リンパ腫	3	5	3	4	2	17	(3.4)

Table 6. II 新生物 (良性)

		(例 数)					計 (年平均例数)	
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年		
078.1	外陰部コンジローマ	23	17	14	12	11	77	(15.4)
599.3	尿道カルンケル	33	32	24	8	12	109	(21.8)
	尿道ポリープ				2	14	16	(3.2)
222.4	陰嚢腫瘍	6	2			1	9	(1.8)
222.1	陰茎良性腫瘍			4		2	6	(1.2)
223.0	腎腫瘍 (良性)	1	1				2	(0.4)
	尿管ポリープ		2				2	(0.4)
223.8	尿道腫瘍	1	1	3			5	(1.0)

60歳代にピークを示す山型の受診数の型であったが、20～30歳代のピークより50～60歳代のピークの方が受診数が多かった。

開業以来10年間の受診数と比較検討すると、ピークは1つで、それは、20～30歳代であった。

性別受診数に関して、男子では以前は30歳代がピークであったが、最近5年間は30代40代50代と略同数で、むしろ40代50代にピークがあるようである。一方女子では、以前は50歳代がピークであったが、最近5年間も同様で、もう一つのピークは20歳代にもあり、二相性を示した。20歳代は膀胱炎等の炎症を中心に、50歳代は結石、尿道膀胱症候群、そして血尿の精査の

ため受診した結果と考えている。

3. 外来新患の内訳

その年間に確実に診断 (以下確診とす) した患者の割合 (5年間の平均) は87.9%, 検査がその年間で途中のため、まだ診断しえない患者 (以下未診とす) は7.6%, 初診時泌尿器科の主訴があり、精査した結果正常であった患者 (以下正常とす) の割合は3.6%, 初診時泌尿器科疾患でなかった患者 (以下他科とす) の割合は0.6%であった。この傾向は最近5～6年間は略同様の結果であった (Table 2)。

入院患者は最近5年間は年平均1,849例であり、手術件数は年平均1,260例、ESWL 施行回数692回であ

Table 7. Ⅲ 内分泌, 栄養および代謝ならびに免疫障害

	(例 数)					計 (年平均例数)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
257 精巣機能障害						
(606) 無精子症	10	6	7	6	8	37 (7.4)
(606) 乏精子症	21	20	16	12	22	91 (18.2)
(758.7) X X Y 症例	4	2	1	3	1	11 (2.2)
(経過)	(1)					(1) (0.2)
不妊の疑い			1	3	4	8 (1.6)
(792.2) 死精子症			1		1	2 (0.4)
(608.8) 血精液症	26	27	20	25	18	116 (23.2)
逆行性射精		1	1		1	3 (0.6)
射精障害						
male vagina			1			1 (0.2)
257.2 類宦官症	5		2		1	8 (1.6)
259.0 晩発思春期	2	2	2	3	1	10 (2.0)
302 性的障害 (IMP)	76	63	45	35	50	269 (53.8)
274 高尿酸血症	15	14	10	10	23	72 (14.4)
高プロラクチン			1			1 (0.2)
307.6 夜尿症	28	35	13	25	30	131 (26.2)
252.0 副甲状腺機能亢進症	1					1 (0.2)
275.4 カルシウム代謝障害						
270.0 チスチン尿症	1	4		1	1	7 (1.4)
(ク結石)		1			2	3 (0.6)

Table 8 (1) X 泌尿生殖系の疾患

	(例 数)					計 (年平均例数)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
580 急性糸球体腎炎	4	3	7	5		19 (3.8)
(経過)		(1)				(1) (0.2)
581 ネフローゼ症候群	5	5	5	5	4	24 (4.8)
(経過)		(1)				(1) (0.2)
582 慢性糸球体腎炎	6	13	25	24	44	112 (22.4)
583 糖尿病性腎症	2	2	2	1	4	11 (2.2)
584 急性腎不全	2	2	4	6	4	18 (3.6)
585 慢性腎不全 (尿毒症)	50	66	34	29	25	204 (40.8)
(経過)	(3)					(3) (0.6)
腎周囲炎		1				1 (0.2)
589 腎の萎縮	16	21	18	14	30	99 (19.8)
無機能腎		4	3		9	16 (3.2)
590.0 腎盂腎炎	149	104	87	97	92	529 (105.8)
591 水腎症	49	40	28	27	42	186 (37.2)
(経過)	(9)	(7)	(4)	(4)	(5)	(29) (5.8)
(術後)		(5)	(4)	(7)	(13)	(29) (5.8)
593 腎及び尿管のその他の障害						
593.0 腎下垂	78	85	58	80	85	386 (77.2)
593.7 V, U, R (両側)	8(1)	14	2(6)	6(1)	10(1)	40(9) (8) (1.8)
(経過せる)			(2)	(2)	(8)	(12) (2.4)
593.2 腎嚢胞	113	93	80	78	119	483 (96.6)
多発性腎嚢胞	11	30	22	32	46	141 (28.2)
593.4 尿管狭窄	11	14	12	9	17	63 (12.6)
腎動脈瘤	1	2	1	1	2	7 (1.4)
腎梗塞				1	3	4 (0.8)
腎性高血圧症				1	3	4 (0.8)

Table. 8 (2) X 泌尿生殖系一疾患

		(例 数)					計 (年平均例数)	
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年		
592	腎および尿管結石 (合計)	(1,750)	(1,639)	(1,574)	(1,534)	(1,682)	(8,179)	(1,635.8)
592.0	腎 の 結 石 (小計)	(646)	(624)	(601)	(611)	(680)	(3,162)	(632.4)
	腎 結 石							
	単発性	78	72	60	71	77	358	(71.6)
	(両)							
	(右)	183	181	178	146	169	857	(171.4) 1:1.1
	(左)	203	210	160	173	194	940	(188.0)
	多発性	14	14	18	23	20	89	(17.8)
	(両)							
	(右)	15	12	11	21	12	71	(14.2)
	(左)	28	18	11	16	39	112	(22.4)
	(経過せる)	(1)		(1)			(2)	(0.2)
	鑄型結石	2	1	1		1	5	(1.0)
	(両)							
	(片)	26	27	22	17	15	107	(21.4)
	(経過せる)			(2)	(4)	(5)	(11)	(2.2)
	腎杯憩室結石	11	5	10	15	9	50	(10.0)
	海绵体腎結石	1			1		2	(0.4)
	腎・尿管結石		2	2	3	3	10	(2.0)
	(両)							
	(片)	63	52	111	102	120	448	(89.6)
	(経過せる)				(5)	(3)	(8)	(1.6)
	U P J 結 石							
	(右)	21	30	14	14	13	92	(18.4)
	(左)		<(11) (19)	<(5) (9)	<(7) (7)	<(3) (10)		
592.1	尿管の結石 (小計)	(1,104)	(1,015)	(974)	(923)	(1,001)	(5,017)	(1,003.4)
	単発性	14	10	12	12	6	54	(10.8)
	(両)							
	(右)	480	447	422	409	407	2,165	(433.0) 1:1.27
	(左)	601	547	530	497	577	2,749	(549.8)
	(経過せる)	(1)	(1)	(2)	(4)	(2)	(10)	(2.0)
	多発性	1					1	(0.2)
	(両)							
	(右)	6	3	3	1	4	17	(3.4)
	(左)	1	7	5	3	5	21	(4.2)
	尿管瘤結石							
594	下部尿管の結石							
594.1	膀胱結石	29	24	14	16	28	111	(22.2)
594.2	尿道結石	2	2	6	1	9	20	(4.0)
	前立腺結石	3			3	9	15	(3.0)

った。死亡件数は5年間で65例、年平均13例であった。

4. 外来患者手術

外来扱いの手術数とその内訳を Table 3 に示した。従来通りで環状切開、vasectomy, condyloma 切除, caruncle 切除が主なるものであった。

5. WHO による国際疾病分類 (I.C.D.)

I.C.D. に基づく外来新患統計

性感染症 sexually transmitted diseases (以下 STD と略す)、神経因性膀胱、瘻孔状態等の分類は、他科に亘っていることによる煩雑さがあり、適宜上、泌尿器科的に判りやすい疾病分類の項目に並べた。

(1) 感染症および寄生虫症 (Table 4)

腎結核は例年のごとく、5～8例確診されている。

STD に関しては、STD としてまとめた分類がない為、便宜上ここでまとめた。また、外陰部炎、陰部湿疹も原因が明白でなく現症として診断したものである。この中にはヘルペス等によるものも一部あるものと考えている。淋菌は1992年より減少している。勿論クラミジア混合感染もある。ヘルペスと同様にクラミジアも最近増えている。これは診断法が明確になってきたためと考えている。

(2) ①新生物 (悪性) (Table 5)

膀胱腫瘍が一番多く受診した。年平均49例であった。つぎに前立腺癌で21例、年平均42例であった。腎癌は年平均19例であった。

Table. 8 (3) X 泌尿生殖系の疾患

	(例 数)					計 (年平均例数)	
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年		
595 膀胱炎							
595.3 尿道膀胱炎	1,901	1,909	1,840	1,855	1,938	9,443	(1,888.6)
597.0 尿道炎	74	92	62	102	148	478	(95.6)
596.0 膀胱頸部硬化性	3	11	9	11	11	45	(9.0)
596.3 膀胱憩室	1	2	1	1	3	8	(1.6)
586.8 萎縮膀胱	3					3	(0.6)
598 尿道狭窄	57	36	18	34	48	193	(38.6)
(術後)	(5)	(21)	(17)	(3)	(31)	(77)	(15.4)
600 前立腺肥大症	932	886	791	956	975	4,540	(908.0)
(経過)	(31)	(56)	(54)	(70)	(113)	(324)	(64.8)
601.0 前立腺炎 (急性)	7	2	9	20	5	43	(8.6)
601.1 前立腺炎 (慢性)	1,088	1,167	1,064	991	1,099	5,409	(1,081.8)
603 陰嚢水腫	61	65	49	52	58	285	(57.0)
604 精巣炎	2	3	1	3	1	10	(2.0)
(耳下腺炎性)	(2)	(1)				(3)	(0.6)
副精巣炎	85	86	93	78	80	422	(84.4)
(両側)	(1)	(3)	(2)	(5)	(4)	(15)	(3.0)
605 包茎	222	190	97	65	138	712	(142.4)
(真性)			(9)	(17)	(4)	(30)	(6.0)
嵌頓包茎	14	8	14	15	20	71	(14.2)
607 陰茎の障害		3	1	11	7	22	(4.4)
607.0 陰茎硬結	8	5	3	2	3	21	(4.2)
607.1 亀頭包皮炎症	265	209	239	187	225	1,125	(225.0)
608 男性生殖器のその他の障害							
608.1 精液瘤	2	10	3	5	1	21	(4.2)
精索水腫	10	11	9	10	14	54	(10.8)
(456.4) 精索静脈瘤	9	6	1	5	2	23	(4.6)
608.2 精巣捻転	2	1	7	5	2	17	(3.4)
精巣垂捻転		2		2	5	9	(1.8)

副腎癌1例を経験した。

全尿路性器悪性腫瘍は5年間703例(1.77%)であった。

(2) ②新生物(良性)(Table 6)

尿道カルンケル, コンジローマが主たるものであった。

(3) 内分泌, 栄養および代謝並びに免疫障害

Klinefelter 症候群(性染色体構成は XXY を示し, 以下 XXY を略す)は, 5年間11例を経験した。impotence (以下 IMP と略す)は269例, 年平均53.8例を経験した。その主なる原因は機能的, 内分泌性, 高齢化によるものであった (Table 7)。

(4) 泌尿生殖系の疾患

上部尿路疾患では, 結石症, 腎盂腎炎, 腎嚢胞, 腎下垂が主なるものであった。結石症では, 上部尿路結石は8,179例, 年平均1,635例で, 腎は632例, 尿管は5,017例, 年平均1,003例であった。治療の難しい, 両

側錐型結石を5例, 両側の尿管結石10例, 両側尿管結石54例を経験した。いずれも成功している (Table 8^{1,2)}。

一方, 下部尿路疾患では, 尿道膀胱炎, 前立腺炎, 前立腺肥大症が主なる疾患であった。

その他精巣捻転と紛らわしい精巣垂捻転9例を経験した。これはいずれも手術し, 確認したものである (Table 8³⁾。

(5) 先天異常

停留精巣, 遊走精巣, 嚢胞腎が主なるものであった。稀有な癒合腎2例を経験したが, sign が強くないため保存的に follow-up 中である (Table 9)。

(6) 損傷および中毒

腎外傷35例はすべて保存的療法で寛解している。神経因性膀胱477例を経験したが, 脳出血, 脳梗塞, 婦人科の手術後が主なる原因であった (Table 10)。

(7) 症状, 徴候および診断不明確の状態

Table 9. XIV 先天異常

		(例 数)					計 (年平均例数)
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
752	生殖器の先天異常						
752.5	停留精巣 (経過せる)	25 (6)	27	28 (2)	31 (10)	33 (6)	144 (28.8) (4.8)
	遊走精巣 (経過せる)	14 (4)	2 (12)	9	10	13	48 (9.6) (3.2)
752.6	尿道下裂 (経過せる)	2	1	1 (2)	1 (1)	(1)	5 (1.0) (4) (0.8)
752.8	傍尿道口囊腫	2			2	4	8 (1.6)
	単精巣症						
	陰茎湾曲	4	3				7 (1.4)
	倭小陰茎	1	1				2 (0.4)
	精管欠損症					3	3 (0.6)
	陰唇癒合					1	1 (0.2)
753	泌尿器の先天異常						
753.0	単腎症 (経過)	4	7	1 (1)	2 (1)	5	19 (3.8) (2) (0.4)
753.1	囊胞腎	15	15	11	10	13	64 (12.8)
	海绵腎	3	1	1	1		6 (1.2)
	形成不全腎		1	1		1	3 (0.6)
753.1	迴転腎	4	4	1	4	4	17 (3.4)
	馬蹄腎	5	8	4	3	7	27 (5.4)
	骨盤腎	1			1	1	3 (0.6)
	癒合腎	1				1	2 (0.4)
	重複腎盂						
	不完全重複腎盂	16	22	5	4	11	58 (11.6)
	完全重複腎盂	19	2	3	1	1	26 (5.2)
	不完全重複尿管		4	5	8	13	30 (6.0)
	腎杯憩室	2	6		3	3	14 (2.8)
753.4	尿管瘤		1	1	1		3 (0.6)
	水尿管			1		1	2 (0.4)
	下大静脈後尿管	2			1	3	6 (1.2)
753.8	重複尿道 (不完全)						

主なるものは疼痛(側腹部)と血尿である。

血尿は会社の検診, 学校検診, 保健所で行っているすこやか検診等によるもので, 年々受診数が増加している。一部, 前立腺炎, 尿道膀胱炎等が含まれているものと想像されるが, 不明瞭な状態として, 未診としているものである。疼痛も, 外来時の IVP (DIP) にて診断不明瞭なものである。受診時には自然排石したのも若干含まれているものと考えられる (Table 11)。

結 語

1. 主疾患 (Table 12)

外来新患の主なる疾患は, 膀胱炎, 上部尿路結石症, 前立腺炎, 前立腺肥大症であり, これら主疾患を

合せると69.5%を占めた。

その他, 亀頭包皮炎, STD, 包茎, 腎囊胞であった。

2. 男女別主疾患 (Table 13)

男子では, 上部尿路結石症, 前立腺炎, 前立腺肥大症が主なるもので, この3主疾患を合わせると64.6%を占めた。その他包皮炎, STD, 包茎であった。一方女子では, 膀胱炎が約60%, つぎに上部尿路結石症16.2%, そのほか, 腎盂腎炎, 腎下垂であった。

この論文の要旨を, 1994年10月8日(土)第323回日本泌尿器科学会北海道地方会にて発表した。

Table 10. X VII 損傷および中毒

		(例数)					計 (年平均例数)
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
866	腎外傷	3	10	6	7	9	35 (7.0)
	(経過)			(1)		(1)	(2) (0.4)
	尿管損傷	2	5	1	1	1	10 (2.0)
	膀胱損傷					1	1 (0.2)
867.0	尿道断裂 (不完全)		1	4	1	2	8 (1.6)
	(完全)		2	2		2	6 (1.2)
867.6	精巣打撲	5	3	2	7	5	22 (4.4)
	精巣破裂	1					1 (0.2)
	陰茎損傷	6	6	10	7	12	41 (8.2)
	外陰部外傷	6	7	4	4	5	26 (5.2)
	尿道損傷(留置カテーテル時)	5	3	1		4	13 (2.6)
	膀胱タンポナード				2		2 (0.4)
(306), (344), (596)	神経因性膀胱	109	116	77	59	116	477 (95.4)
939	尿生殖路内の異物						
939.0	膀胱異物			1	1	1	3 (0.6)
	尿道異物	1				1	2 (0.4)
939.2	陰茎異物	1		4	1	2	8 (1.6)
	陰嚢内異物		2				2 (0.4)
995.0	ヨードショック		1				1 (0.2)

Table 11. X VI 症状, 徴候および診断不明確の状態

		(例数)					計 (年平均例数)
		1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
788	泌尿系に関する症状						
788.0	腎(腹)部疼痛	121	126	75	74	102	498 (99.6)
788.1	排尿障害	1	4	1	2	1	9 (1.8)
788.2	尿閉	4	9	2	4	4	23 (4.6)
788.3	尿失禁	22	32	32	24	50	160 (32.0)
788.4	頻尿および多尿	21	37	23	30	23	134 (26.8)
788.5	乏尿		10	5	3	1	19 (3.8)
	(浮腫)	(14)	(31)	(11)	(22)	(13)	(91) (18.2)
(586)	尿毒症(慢性腎不全)	50	66	34	29	25	204 (40.8)
	(腎透析希望)	(10)	(5)	(5)	(14)	(5)	(39) (7.8)
791	尿検査の非特異的所見						
791.0	蛋白尿	11	27	20	31	46	135 (27.0)
	血尿+蛋白尿		1				1 (0.2)
(599.0)	細菌尿			1		1	2 (0.4)
(599.7)	血尿(経過)	237(9)	252	215	343	437	1,484(9), (296.8) (1.8)
	腎出血(経過)	10(1)	17	20	22	14	83(1), (16.6) (0.2)
	血尿の検査		3	2			5 (1.0)
791.1	乳び尿					1	1 (0.2)
780.6	発熱	1	6	1	1		9 (1.8)
788.1	残尿感	3	4			1	8 (1.6)
	排尿痛	2	1				3 (0.6)
791.9	尿混濁		1				1 (0.2)
	不妊		9	5	5	2	21 (4.2)

Table 12. まとめ(1)外来新患の主疾患

	(例 数)					計 (年平均)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
1 膀胱炎(急性・慢性)	1,901(23.3%)	1,909(24.2%)	1,840(23.8%)	1,855(23.3%)	1,938(24.4%)	9,443 (1,888.6) (23.8%)
2 上部尿路結石症	1,750(21.4%)	1,639(20.7%)	1,574(20.7%)	1,534(19.3%)	1,682(21.1%)	8,179 (1,635.6) (20.6%)
3 前立腺炎(急性・慢性)	1,095(13.4%)	1,169(14.8%)	1,075(13.9%)	1,011(12.7%)	1,104(13.9%)	5,452 (1,090.4) (13.7%)
4 前立腺肥大症	932(11.4%)	886(11.2%)	791(10.3%)	956(12.0%)	975(12.3%)	4,540 (908.0) (11.4%)
5 亀頭包皮炎症	265(3.2%)	209(2.6%)	239(3.1%)	187(2.3%)	225(2.8%)	1,125 (225.0) (2.8%)
6 S T D(淋菌等)	183(2.2%)	324(4.1%)	205(2.7%)	168(2.1%)	158(2.0%)	1,038 (207.6) (2.6%)
7 包茎(嵌頓包茎含む)	236(2.9%)	198(2.5%)	120(1.6%)	97(1.2%)	162(2.0%)	813 (162.6) (2.1%)
8 腎嚢胞(単・多発)	124(1.5%)	123(1.6%)	102(1.3%)	110(1.4%)	165(2.1%)	624 (124.8) (1.6%)
9 腎盂腎炎	149(1.8%)	104(1.3%)	87(1.1%)	97(1.2%)	92(1.2%)	529 (105.8) (1.3%)
10 神経因性膀胱	109(1.3%)	116(1.5%)	77(1.0%)	59(0.7%)	116(1.5%)	477 (95.4) (1.2%)
副精巣炎	86(1.1%)	89(1.1%)	95(1.2%)	83(1.0%)	84(1.1%)	437 (87.4) (1.1%)
腎下垂	78(1.0%)	85(1.1%)	58(0.8%)	80(1.0%)	85(1.1%)	386 (77.2) (1.0%)
インポテンツ	76(0.9%)	63(0.8%)	45(0.6%)	35(0.4%)	50(0.6%)	269 (53.8) (0.7%)
膀胱腫瘍	67(0.8%)	47(0.6%)	34(0.4%)	54(0.7%)	45(0.6%)	247 (49.4) (0.6%)
前立腺癌	21(0.3%)	34(0.4%)	43(0.6%)	49(0.6%)	63(0.8%)	210 (42.0) (0.5%)
	8,171	7,900	7,715	7,958	7,948	

() %は有疾患数に対する割合

Table 13. まとめ(2)外来新患 男・女の主疾患

主疾患	(例 数)					計 (年平均)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
上部尿路結石症	1,208(24.0%)	1,157(23.9%)	1,078(22.9%)	1,038(21.4%)	1,193(24.4%)	5,674 (1,134.8) (23.4%)
前立腺炎	1,095(21.8%)	1,169(24.1%)	1,073(21.8%)	1,011(20.8%)	1,104(22.9%)	5,452 (1,090.4) (22.5%)
前立腺肥大症	832(18.5%)	886(18.3%)	791(16.8%)	956(19.7%)	975(20.2%)	4,540 (908.0) (18.7%)
亀頭包皮炎症	265(4.3%)	209 (4.3%)	239(5.1%)	187(3.9%)	225(4.7%)	1,125 (225.0) (4.7%)
S T D	187(3.7%)	297 (6.1%)	183(3.9%)	161(3.3%)	150(3.1%)	978 (195.6) (4.0%)
包茎	236(4.7%)	198 (4.1%)	120(2.6%)	97(2.0%)	162(3.4%)	813 (162.6) (3.4%)
副精巣炎	86(1.7%)	89 (1.8%)	95(2.0%)	83(1.7%)	84(1.7%)	437 (87.4) (1.8%)
腎嚢胞	78(1.5%)	83 (1.7%)	58(1.2%)	56(1.9%)	92(1.9%)	367 (73.4) (1.5%)
(有疾患数)	(5,026)	(4,839)	(4,697)	(4,856)	(4,827)	

主疾患	(例 数)					計 (年平均)
	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	
膀胱炎	1,847(58.7%)	1,864(60.9%)	1,784(59.1%)	1,794(57.8%)	1,889(60.5%)	9,178 (1,835.6) (59.4%)
上部尿路結石症	542(17.2%)	482(15.7%)	496(16.0%)	496(16.0%)	489(15.7%)	2,505 (501.0) (16.2%)
腎盂腎炎	136(4.3%)	92 (3.0%)	92(3.0%)	84(2.7%)	87(2.8%)	491 (98.2) (3.2%)
腎下垂	73(2.3%)	81 (2.6%)	53(1.8%)	69(2.2%)	87(2.8%)	363 (72.6) (2.3%)
神経因性膀胱	54(1.7%)	49 (1.6%)	46(1.5%)	38(1.2%)	60(1.9%)	245 (49.0) (1.6%)
(有疾患数)	(3,145)	(3,061)	(3,018)	(3,102)	(3,121)	

文 献

- 1) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹ほか: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第1報), 1993年度外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1671-1676, 1984
- 2) 加藤修爾, 丹田 均, 大西茂樹, ほか: 東札幌三

樹会病院における臨床統計(第2報), 開設より5カ年余の外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1677-1684, 1984

- 3) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第3報), 1984年度外来新患統計. 泌尿紀要 31: 1743-1749, 1985

- 4) 坂 丈敏, 丹田 均, 加藤修爾, ほか: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第4報), 開設より5カ年余の入院および手術統計. 泌尿紀要 31: 1751-1759, 1985
- 5) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第5報), 1984年度入院患者統計. 泌尿紀要 31: 1995-2002, 1985
- 6) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 東札幌三樹会病院における臨床統計(第6報), 1985年度外来新患統計. 泌尿紀要 33: 730-734, 1987
- 7) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 三樹会病院における臨床統計(第7報), 1986年度外来新患統計. 泌尿紀要 33: 1662-1668, 1987
- 8) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 三樹会病院における臨床統計(第8報), 1987年度外来新患統計. 泌尿紀要 34: 2213-2218, 1988
- 9) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, ほか: 三樹会病院における臨床統計(第9報), 1988年度外来新患統計. 泌尿紀要 35: 1445-1450, 1989

(Received on December 1, 1994)
(Accepted on January 13, 1995)